

幼童訓

坂田安治著
美澤書

全

K110
6.17

B 23

2979



大講義坂田安治著
卷 菱潭書

幼童訓

全

神道禊教院藏版

幼童訓

朝えうもやくたまご先どう

手を阿らひ口棧くん

幼童訓



まき駿かこを修をさめて

家の内まき庭ををど

掃はら除ぢ終をいりて神かみあを

拜かむ次つぎふ先祖せんぞ乃

靈たま舎やの前まへをよお

父母ちちおや長なが上のひた禮れいを

なほづこき神かみ

世より女皇國の風ふう

像しやうあ凡人とて

神うやまを敬うやままゝるゝ

らほ神うやま坐ます

國土人民も萬物

なりいづ

生なりいづ出なりるなりなるなり里なりになり故なりりなり

朝なり夕なり沓なり前なりをなり拜なり之なり

其なり活なり恩なりりなりむなりくなり以なり

奉なりらなりんなり事なりをなり思なりふなり

一

さなりそなりのなり先なり祖なり及なり代なりのなり

祖等乃神靈おやたち為たま

繼ついでに家業いへわざ乃

榮行さかゆくゆ屋いへううに子うこの

孫こらま越こ末まへ遠とほくま守まも

護り來な賜たまふこ恩めぐみ

おた忘わするは屋いへのの心こころ

こゝをもちて春秋あきの

年ふつをひりて

其祭事まつりごと越たこりふ

一

古いにしへより我日本國わがにっぽんこくにハ

神國かみくになるを女界よのちか

よろづのくに

たぐひ

萬國ふ比類なき

かみ

神の御定ありて

くーこ

すめらみこと

畏くえん天皇にその

かみきこ

下の大君と満

をさ

たま

ひ

る國を治め賜ひ方

と

おほ

まこと

み

たと

民を天皇に臣下と

必
命
論

志いて命のちの限かぎり仕つへ

在あるまき君み臣こはた大おほ

義よ持もちたはりて人ひとの

道みちとち國くに安やすららの

有あるまたた法は治ち國くに體たい有ある

事ことをあ能あたくあ辨わべらふべし

口
書
三

八

如
論

恒つね小こ家かよよままををてていい長なが

上うへのの人ひとりり事こと（とも）か友ゆう

おおたた出い入ではは人ひとおお真ま



実ことををああららとと毎ひ日じ家か

身みのの事こと越こええりりてていい

何なにももななしし上うへへのの人ひと

用を勤め之家を出つと
いで

と他たは行ゆくときまかなら必かならまいで

神前先祖の靈たまや舎

また父母に告つげりまを

下歸かへりきまたる時またもまた

おな

好童言

常つねの立振たちふるまひいぢ

しき風ふうり習ならはま

物ものななままももああかかここ

多たききかかんんよよ快かいババ

たはいかにあ

音こゑなあらくの罵のらいいはくく

刀童

廿

女
童
言

身をか(り)て理こと

背そむ々る事あづのふ

正た々いついねい

過あやまちあららむら被むらひ事ことをが

勤つとめも早はやくあらたむた

他人たににあいひい同どうじじくく

如神抄
童謡
詩集

被除むらへて其過そのちをあやま

改あらむる事をつぐま知らし

むべし目よな見ゆるもの

吾あら洗つぐまひえ贖なひよ成

去あづべ々たまきごと見えざる

所あづを神乃たま預り給ふ

必好い故
童
誦

事なるれを被事を

なほづきありされ

過を改るは神世

より傳つる被つる

よらびかる叶をぬ事

を知らるる

女
童
言

食物まよくの妄もつはとがまりるべし

罪過つこ之あやまり病やまひも食くらふまり

起おこる事ことあることはまり

食物ものの本もとはなまり神かみ乃なり

汚みいけ陰かげふりて出い来でるく

御恩ごんを深めく思おぼひて

幼童言

を不 ざり

等閑ふまふ屋のらび

成人せいじんの後ごえ酒さけいつ

くむべく度どを過あやま

べのらび自みづからいおめ

ざれが身うしかを失うふあり

少年とらのまけいあづ

女
童
言

手かき物讀ものよむこと哉

能く勉つとむむつとむしつとむ机つくえり

向むかひ筆ふでとりて心こころを

平たひらららのの心こころ一字

一點いっふふをを心こころにに

書かすす處ところ

女
童
言

書物をかろく扱ふ

あつ

づゝづゝ一冊こつかりの書物

し人の心をつくせる

事かた大なる教おそえのあり

まゝ神乃活名あり

たふと尊たふとまの人の名あると思

はげなるが華ん也今の

世の萬國くにぐの書しよも讀

む彼かれを取とりて

是これの助たす弍とまはるは

いよのたこまのり但

我すてを捨すてて彼かれを取とり

必
童
言

べらば本末内外の

もと すゑ うちと

別わかちをきく心ほづ

我皇國わがみくにの大道おほみちを

神典かみことふ阿心あしんを志

ばめてを自心みこころよく知しる

原もと婦めかけ迷まよふ事

外紀
神皇正統記

なのおれ是ふ随ふをたのむ

神なるらとひ是かむ

那らふを神ならふおるや

いふたまじにおの皇

國こくよ生れう甲斐ひ

ある人とありて報國はやくこく

の志こころをたてもおほまやまとのて大日本

國くに乃おほ大造おほ寶たからのな名なを

辱ぢぢめぢぢがぢぢらぢぢうぢぢはぢぢぢぢ

なるなるとと阿あををれれ我わがつつ生せい

のの幼おと音ねららよよ上かみ件の小こ

志こころをたてもおほまやまとのて大日本

女
童
詩

守りて無道

あがきかき

人とたふ事あり

おやに
あがきぬ
こ

不孝兒とある事

たのき

明治十八年四月

須賀西屋主人

刀
童
川

廿三

外
重
訂

飯田安治

養源寺



明治十八年四月十一日 版權免許
同年同 月 出版

神道禊教本院藏板

本院擔當

出版人 權中教正飯田鐵安

東京下谷區西町二番地

著者 大講義飯田安治

今區今町一番地

